

当会会員の(株)エルコム様が
2024年5月24日付の日刊工業新聞に紹介されました。

エルコム(札幌市北区、相馬興業社専)は2021年、政府から「ジャパンSDGsアワード」の特別賞に選ばれた。持続可能な開発目標(SDGs)を冠した様々な表彰制度の中でも、最も栄誉ある賞の一つだ。

プラスチック廃棄物からエネルギーを作り出す「e-PEPシステム」が評価された。工場で使用終わった緩衝材や包装フィルム、市場の発泡スチロール製魚箱、食卓トレーなどを粒状のペレット燃料に加工する装置と、ペレットを燃焼させて蒸気や温水を発生する小型ボイラで構成する。その後、発泡スチロールの減容機を開発

日本を変える
17Goals

▽26 △

プラ廃棄物 燃料化に貢献

「e-PEPシステム」の開発は2007年にさかのぼる。海で使用終わったフロート(浮き)の燃料化を検討したが、燃焼に関連した知見がない。ボイラメーカーに声をかけたが、当時は小型ボイラの開発は難しいと難色を示された。

事業企画室のドイル千賀子室長は「自社開発するしかなかった。スタートの燃焼を見ながら勉強した」と振り返る。約9年後の16年、ボイラが完成した。すると17年末、中国がプ

した。圧縮して容積を小さくすると輸送効率を向上でき、リサイクルを増量できる。

「e-PEPシステム」の開発は2007年にさかのぼる。海で使用終わったフロート(浮き)の燃料化を検討したが、燃焼に関連した知見がない。ボイラメーカーに声をかけたが、当時は小型ボイラの開発は難しいと難色を示された。

事業企画室のドイル千賀子室長は「自社開発するしかなかった。スタートの燃焼を見ながら勉強した」と振り返る。約9年後の16年、ボイラが完成した。すると17年末、中国がプ

ラスチック廃棄物の輸入を規制、行き場を失ったプラ廃棄物の処理が問題となり、「同じシステムを導入し、21年には長崎県対馬市に燃

料化装置を納入した。17年にコープさっぽろ(札幌市西区)が現場で燃料化する。23の転換が急がれており、中小企業が生んだ製品に期待が集まる。

プロジェクト)を設立し、リコーなど異業種と連携してプラスチックの資源化を推進する。サーキュラーエコノミー(循環経済)への




●首相官邸でジャパンSDGsアワードの表彰を受ける相馬エルコム社長(左から2人目)
●廃プラスチック由来の燃料を燃焼するボイラ

当会では日刊工業新聞と連携し、会員企業の取り組みを発信しています。